

[10_01]情報処理教育広報表紙奥付等

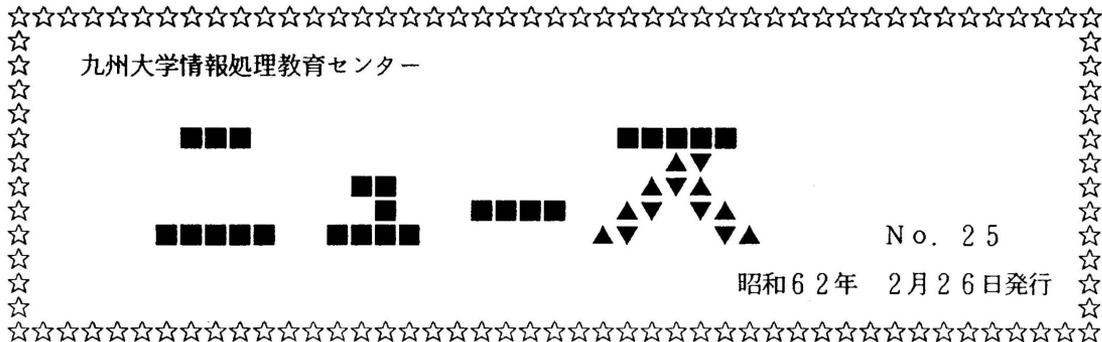
<https://hdl.handle.net/2324/6768583>

出版情報：情報処理教育広報. 10 (1), 1987-07. Educational Center For Information Processing,
Kyushu University

バージョン：

権利関係：





九州大学情報処理教育センター



No. 25

昭和62年 2月26日発行

1. 3月～4月の運転時間について

3月～4月の運転時間は次のように予定しています。3月28日(土)から4月12日(日)は、年度の切り替え作業とシステムソフトウェアの更新を行いますので、一般の利用者は使用できません。ご注意ください。

(1) 3月 1日(日)～ 3月27日(金)

曜日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月～金	8:30～16:50	9:00～16:50	9:00～16:50
土	休　　み	休　　み	休　　み

(2) 3月28日(土)～ 4月12日(日)

年度の切り替え作業とシステムソフトウェアの更新のため計算機の利用停止

(3) 4月13日(月)～ 4月19日(日)

曜日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月～金	8:30～16:50	9:00～16:50	9:00～16:50
土	休　　み	休　　み	休　　み

(4) 4月20日(月)～4月30日(木)

曜日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月～金	8:30～18:00	9:00～17:50	9:00～16:50
土	休　　み	休　　み	休　　み

2. 昭和62年度の課題申請について

年度末になりましたので、来年度も本センターを使用する予定の授業担当教官と補佐職員は昭和62年度前期の課題申請を行ってください。課題申請は前期および通年の授業用（3桁目がX）と授業準備用（3桁目がEかF）を受け付けます。現在本センターを使用中の方で、3月27日（金）までに情報処理教育センター受付に課題申請書を提出された利用者については、課題番号を継続し、データセットを消去しないように配慮します。その他の課題番号とデータセットはすべて年度末に消去しますのでご注意ください。

3. プログラム相談について

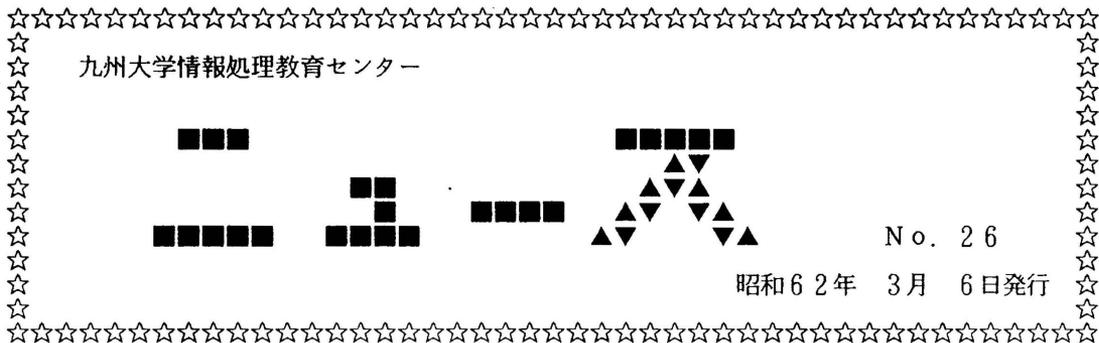
本年度のプログラム相談は2月27日（金）で終了します。来年度のプログラム相談は5月上旬ぐらいから再開する予定です。その時、新規にプログラム相談員を募集する必要があるセンターニュース等でお知らせしますので、適当と思われる学生をご存じの教官をご推薦ください。FORTRANかPASCALの使用経験者で情報処理教育センターの使用方法がある程度わかっている学生が望ましいと考えています。プログラム相談をしてもらう学生にはプログラム相談用の課題番号と若干のアルバイト料が出ます。

4. ニュースNO. 24の訂正について

ニュースNO. 24の「2. UTILISPの提供開始について」の記事の中で誤りがありましたので訂正します。

誤：UITLISPから抜け出せなくなったときはアテンションキー（PA1キー）を10回以上押す。

正：UTILISPから抜け出せなくなったときは、！（エクスクラメーションマーク）を10個以上連続して入力する。



1. J I S COBOLからCOBOL 85への移行について

情報処理教育センターでは現在 J I S COBOL を提供していますが、昭和62年4月からCOBOL 85へ移行します。これに伴って4月以降は J I S COBOL を使用できなくなります。新しいCOBOL 85に移行すると、

- ・最新のCOBOLを使用できる、
- ・MSGコマンドでエラーメッセージの説明を日本語で表示できる、

などの利点があります。

しかしながら今回の変更は、これまでFORTRANやPASCALで行ってきた言語処理系の変更と異なって、完全には互換性が保たれておらず、一部ソースプログラムの修正が必要になる場合があります。主な影響点について次に解説しますが、さらに詳しい資料を用意しておりますので、必要な人は情報処理教育センター受付まで請求してください（教官かプログラム相談員に限る）。なるべく早い時期に以下の点に気をつけてプログラムの書き換えを行ってください。

(1) 主に影響する点

① 日付の参照

J I S COBOLでは、MM/DD/YY（月/日/年）の形式（8文字）で、MOVE命令を用いる。

```
10 PDATE          PIC          X(8).  
MOVE CURRENT-DATE TO PDATE.
```

COBOL 85では、YYMMDD（年月日）の形式（6文字）で、ACCEPT命令を用いる。日付の形式をこれまで通りで使用したい場合は、例えば以下の要領で形式を変換する必要がある。

```

01 CURRENT-DATE.
   10 MM          PIC      XX.
   10 FILLER      PIC      X   VALUE  "/".
   10 DD          PIC      XX.
   10 FILLER      PIC      X   VALUE  "/".
   10 YY          PIC      XX.
01 DATED.
   10 YY          PIC      XX.
   10 MM          PIC      XX.
   10 DD          PIC      XX.

```

```

ACCEPT DATED FROM DATE.
MOVE CORR DATED TO CURRENT-DATE.

```

② 時刻の参照

JIS COBOLでは、HHMMSS（時分秒）の形式（6文字）で、MOVE命令を用いる。

```
MOVE TIME-OF-DAY TO TIMEW. .... X(6)
```

COBOL 85では、HHMSSRR（時分秒1/100秒）の形式（8文字）で、ACCEPT命令を用いる。2文字ほどデータが長くなるので注意すること。

```
ACCEPT TIMEW FROM TIME. .... X(8)
```

③ 改ページの仕方

JIS COBOLでは次の要領で改ページを行う。

```

SPECIAL-NAMES.      C01 IS PAGE-CHANGE.
WRITE OUT-BUF FROM HEADER AFTER PAGE-CHANGE.

```

COBOL 85では次の要領で改ページを行う。SPECIAL-NAMES句は不要となる。

```
WRITE OUT-BUF FROM HEADER AFTER PAGE.
```

④ SORTパラメータの設定

これまでSORT命令に合わせて実行していた、

```
SORT-FILE-SIZE、SORT-CORE-SIZE
```

などがなくなる。翻訳時または実行時にオプションSMSIZE (MAX) を指定する。

⑤ 予約語

JIS COBOLとCOBOL 85では予約語が一部異なる。そのためこれまで問題なかった一意名が予約語と競合する場合がある。

(2) 使用方法

昭和62年3月末までは通常の実行方法ではJIS COBOLが実行されます。以下の要領でCOBOL 85のコンパイラが起動されるようにしてから実行してください。翻訳時のパラメータなどの詳細はマニュアルを参照してください。もとに戻すにはLIBコマンドを実行してください。

① READYモードで修正して翻訳・結合する場合 (昭和62年3月末まで)

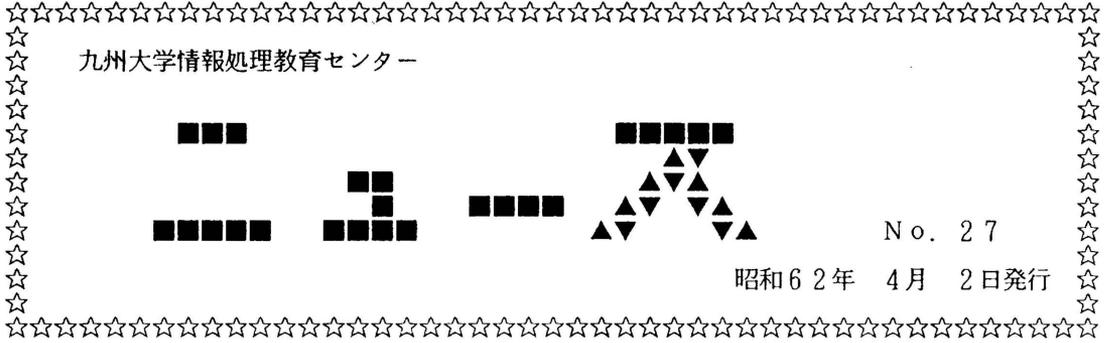
```
READY
COBOL TEST85 COBOL (PROG1)
COBOL PROMPTER VIOL11 PROCESS ..... 普通 実行   JIS COBOL 起動

JIS COBOL VIOL11 IN PROGRESS
END OF COMPILATION
STATISTICS:HIGHEST SEVERITY CODE=00, PROGRAM UNITS= 1
READY
CB85MODE ..... COBOL85      起動
READY
COBOL TEST85 COBOL (PROG1) ..... 同          COBOL85 翻訳
** DIAGNOSTIC MESSAGE ** (PROG1 ) .....      表示
JMN12161-S 130,130 SYNTAX OF FUNCTION-NAME CLAUSE OR ALPHABET CLAUSE IS
INVALID.
JMN25031-S 1230 USER WORD 'CURRENT-DATE' IS UNDEFINED.
JMN25031-S 1240 USER WORD 'TIME-OF-DAY' IS UNDEFINED.
JMN25031-S 1670 USER WORD 'PAGE-CHANGE' IS UNDEFINED.
END OF COMPILATION
STATISTICS: HIGHEST SEVERITY CODE=12, PROGRAM UNIT=1
READY
MSG JMN25031-S ..... 必要          説明 日本語 表示
JMN25031-S
USER WORD '@1@' IS UNDEFINED.
意味
利用者語 '@1@' 定義 .....      場合 @1@
上 USER WORD 'CURRENT-DATE'

READY
E TEST85 COBOL (PROG1) .....      起動
E
修正
E
END S
KEQ524601 SAVED IN DATA SET 'JX12345.TEST85.COBOL (PROG1) '
READY
COBOL TEST85 COBOL (PROG1)
END OF COMPILATION
STATISTICS: HIGHEST SEVERITY CODE=00, PROGRAM UNIT=1 ..... 翻訳 正常 終了
READY
LINK TEST85 OBJ (PROG1) LO (PROG85 (PROG1)) LIB ('SYS1.COB85.COBLIB') ..... 翻訳 正常
結合
** MEMBER NAME ** PROG1 WAS NOT FOUND BUT HAS BEEN ADDED TO LIBRARY.
READY
LIB ..... JIS COBOL      起動      状態 戻
READY
```

② EDITモードで修正して実行する場合 (昭和62年3月末まで)

```
READY
CB85MODE ..... COBOL85      起動
READY
E TEST85 COBOL(PROG1) .....   起動
E
RUN .....      翻訳
** DIAGNOSTIC MESSAGE ** (PROG1 ) .....   表示
JMN1216I-S 130,130 SYNTAX OF FUNCTION-NAME CLAUSE OR ALPHABET CLAUSE IS
INVALID.
JMN2503I-S 1230 USER WORD 'CURRENT-DATE' IS UNDEFINED.
JMN2503I-S 1240 USER WORD 'TIME-OF-DAY' IS UNDEFINED.
JMN2503I-S 1670 USER WORD 'PAGE-CHANGE' IS UNDEFINED.
END OF COMPILATION
STATISTICS: HIGHEST SEVERITY CODE=12, PROGRAM UNIT=1
E
MSG JMN1216I-S .....   必要      説明 日本語 表示
JMN1216I-S
SYNTAX OF FUNCTION-NAME CLAUSE OR
ALPHABET CLAUSE IS INVALID.
意味
機能名句又 ALPHABET句 構文 誤
E
E
      修正
E
RUN .....      翻訳
END OF COMPILATION
STATISTICS: HIGHEST SEVERITY CODE=00, PROGRAM UNIT=1 .....   翻訳時      出
JQB1042 JMPPLAN .....   COBOL85用 実行時
JQB1042 JMPPTJOB
JQB1042 JMPMDATE
JQB1042 JMPFPSEQ
JQB1042 JMPFFINT
JQB1042 JMPFPCTL
JQB104I-E EXTERNAL REFERENCE - UNRESOLVED.
E
ALLOC F(SYSUT1) DA(*) SHR REUSE .....   実行 必要      割付
E
ALLOC F(SYSUT2) DA(*) SHR REUSE
E
RUN LIB('SYS1.COB85.COBLIB') .....   COBOL85用 実行時      指定 実行
END OF COMPILATION
STATISTICS: HIGHEST SEVERITY CODE=00, PROGRAM UNIT=1
入力 与
/* .....      終
      実行結果 表示
E
END S .....   修正      保存      終了
KEQ52460I SAVED IN DATA SET 'JX12345.TEST85.COBOL(PROG1)'
READY
LIB .....   JIS COBOL      起動      状態 戻
READY
```



九州大学情報処理教育センター



No. 27

昭和62年 4月 2日発行

1. 利用の手引きの改訂

これまで情報処理教育センターでは独自の管理用ソフトウェアを使用していましたが、新しいソフトウェアを一般公開する上でいろいろの不都合が発生して来ています。そこで昭和62年4月から管理用ソフトウェアを全く新しいものに変更して運用を行います。これに伴って「利用の手引き」を改訂しましたので、4月以降に授業をされる場合は必ず新しい「利用の手引き（第六版）」を受け取って使用してください。新しい「利用の手引き」はすでに出来上がっていますので、早めに情報処理教育センター受付に請求してください。なお利用制限なども次の「2. 利用制限の変更」で解説しているように変更されますので十分ご注意ください。

2. 利用制限の変更

昭和62年4月から課題番号当たりの制限とジョブ当たりの制限を次のように変更します。従来はプリンタ用紙に課金していませんでしたが、今回からはオフィスプリンタ用紙1枚につき10円、ラインプリンタ用紙1枚につき3円として課金しますので特にご注意ください。

(1) 課題番号あたりの制限

昭和62年4月から課題番号あたりの制限は次のようになります。

項 目	学 生	教 官
予 算	5, 0 0 0円	20, 0 0 0円
データセット個数	3 0個	3 0個
データセット容量	1, 0 4 0 KB	6, 5 0 0 KB

① 予算

予算は CPUが2円/秒、端末接続時間が1円/分、オフィスプリンタ用紙10円/枚、ラインプリンタ用紙3円/枚 として切り上げ計算されます。予算が制限の90%を越えると次のメッセージがLOGON時に出力されます。

KDU35340I LOGON WARNING - YOUR CHARGE FOR CURRENT
ACCOUNT 課題番号 EXCEEDED 90 PERCENT

さらに予算が制限を超えると、次のメッセージが出力され、計算機を使用できなくなります。

KDU35341I LOGON REJECTED - YOUR CHARGE FOR CURRENT
ACCOUNT 課題番号 EXCEEDED 100 PERCENT

利用者の予算の使用状況はTSSセッションを終了したときに次の形式で表示されるので常に注意を払ってください。

九州大学情報処理教育センター FACOM M380Q システム					
課題番号	JX12345	日付	87.04.10	時刻	16:21:38
		使用記憶領域			756 KB
		ディスク入出力回数			101 回
		ファイル使用量			260 KB
		TSSジョブ件数			35 件
		FIBジョブ件数			0 件
予 算	5,000 円				
課金項目	単 価	使用量	金 額	累積額	
TSS-CPU 時間	2円/秒	1.43 秒	2 円	486 円	
FIB-CPU 時間	2円/秒			0 円	
端末接続時間	1円/分	3.045 秒	51 円	123 円	
OPR用紙	10円/枚			520 円	
NLP用紙	3円/枚			0 円	
合 計			53 円	1,129 円	

LOGOFF時の予算使用状況の表示例

② データセット

データセットを制限を超えて作成しようとするときのようなエラーメッセージが表示されて作成できません。またこれまでのように一時的に制限を超えてデータセットを作成することも出来ませんのでご注意ください。

KEQ56245I DATA SET データセット名 NOT ALLOCATED, NOT ENOUGH
SPACE ON VOLUMES+

また次に示すデータセットは利用者が意図的に削除しなければ、これまではそのまま残っていましたが、昭和62年4月以降は一定の日数が経過すると自動的に消去されますのでご注意ください。

・作成から8日で消去されるもの

EDITSAVE.内容識別修飾子, PFEDITA.BACKUP, PFEDITB.BACKUP,
CONDENSE, RELEASE, RELEASE.CONDENSE

・翌日の朝一番に消去されるもの

PFDn .LIST (nは一桁の数字)

(2) ジョブ当たりの制限

昭和62年4月からジョブ当たりの制限は次のようになります。

種類	CPU 標準値 (分)	CPU 最大値 (分)	メモリ 標準値 (K B)	メモリ 最大値 (K B)	接続時間 (時間)
TSS	2	—	2048	3072	3
FIB	1	3	2048	3072	—

(3) データセットの共用関係

昭和62年4月からデータセットの共用関係は次のようになります。データセットはその所有者によって、学生、授業（教材表示用、課題番号の3桁目がX）、教官個人（授業準備用、課題番号の2桁目がZ）、およびシステムに分けています。

所有者	利用者	学 生	授 業	教官個人
学 生	アクセス不可	アクセス不可	所属する授業の学生に対しては何でも可	アクセス不可
授 業	所属する授業だけ参照可	所属する授業だけ参照可	許可があればアクセス可	許可があればアクセス可
教官個人	アクセス不可	アクセス不可	許可があればアクセス可	許可があればアクセス可
システム	参照可	参照可	参照可	参照可

授業と教官個人の課題番号では、これまではデータセット名がわかれば特に許可がなくても他の教官個人や授業の課題番号に属するデータセットを参照することができていましたが、昭和62年4月以降はデータセットの所有者が積極的に許可しない限り、他の課題番号に属するデータセットを参照できなくなります。データセットの参照許可を他の課題番号に与える方法については次の例を参考にしてください。

LOGON TSS JXX7001 授業用課題番号

(中 略)

```
READY
COPY 'JZE0001.A.DATA' A.DATA ..... 個人用          授業用
                                     以下          表示
KDS6001 JXX7001, JXX7001G, RACHECK FAILED, USER NOT ACCESSIBLE TO JZE0001.A.DATA
READY
```

LOGON TSS JZE0001 個人用課題番号

(中 略)

READY
PERMIT A, DATA, ID(JXX7001) A(READ) 教官個人 課題番号 参照 可能 権READ 与

READY
LISTDSO DA(A, DATA) ALL A, DATA 管理情報 表示
DATASET=JZE0001, A, DATA
VOLUME=PUB003 UNIT-TYPE=30702085
DATASET-TYPE=NONVSAM
OWNER=JZE0001 REGISTRATION-GROUP=JZE0001G
YOUR-ACCESS=UNDEFINED UACC=NONE
AUDIT=FAILURES LEVEL=0
HISTORY
REGISTERED=87.03.27 UPDATED=87.03.27 ACCESSED=87.03.27
STATISTICS
ALTER=0 CONTROL=0 UPDATE=1 READ=0
ACCESS-LIST
USER/GROUP--ACCESS---COUNT
JXX7001 READ 0 誰 権利 与 表示
READY

LOGON TSS JXX7001 再度 授業用課題番号

(中 略)

READY
COPY ' JZE0001, A, DATA ' A, DATA 今度
READY

3. 計算機システム接続用電話の変更

昭和62年4月から計算機システム接続用電話回線を次のように変更します。電話回線からの使用はごく限られていること、電話回線では使用できないソフトウェアが増えていることなどを考慮して、回線数を減らしますのでご了解ください。特に18番の代表番号の回線はなくなりますので、ご注意ください。なお局線641-4538と内線2660については、なるべく早い時期に300/1200/2400bps (CCITT規格)の3速度自動切り替え式に変更する予定です。

種 別	電 話 番 号
300bps (V. 21)	局線641-4538
1200/2400bps (V. 22/V. 22bis)	内線2660
1200bps (Vadic)	内線2659

3. LOGOFF時の注意

LOGOFFコマンドを実行したときに予算の使用状況などが表示されますが、その時点ではそのTSSセッションはまだ完全に終了していません。そのためそのままTSS端末の電源をきって、別のTSS端末でLOGONしようとする、その課題番号は現在使用中ということでLOGONできません。LOGOFFコマンドを実行したあと **JCB931I PLEASE LOGON** というメッセージが表示されるまで「実行キー」を押してからTSS端末の電源をきってください。

4. プログラム相談の開始

5月11日（月）からプログラム相談を開始します。計算機システムを使用する上で分からないことがあるときはプログラム相談員に聞いてください。プログラム相談員は黄色の腕章をつけて、月曜から金曜の14:30～16:30まで、センター4階オープン端末室にいます。

(5) 9月11日(金)～9月30日(水)

曜日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月～金	8:30～18:00	9:00～17:50	9:00～16:50
土	休　　み	休　　み	休　　み

2. センター4階講義室のOHP

センター4階講義室にOHPを2台設置していますが、今回そのうちの1台を1.5倍と2倍に拡大投影できるOHPに更新しました。そのためプリンタ出力などをそのままOHPシートとして準備したようなものでも部分的に拡大投影できるので、これまでよりも一層容易に説明を行うことができます。講義室教卓の上に取り扱い説明書のコピーを準備していますので、一読の上、ぜひご活用ください。

3. センターニュースの配布方法

これまで情報処理教育センターではセンターニュースを基本的には各教官個人あてに配布していました。しかしながらセンターに登録されている教官数がここ数年増加しており、教官個人あてに配布することは困難になってきました。そこで今回のセンターニュースから教官個人ではなく、各学科または学部の事務室を経由して配布して頂くように配布方法を変更します。情報処理教育センターに課題登録されている教官全員にニュースを配布することになっていますが、多少の混乱があるかもしれません。またセンターに課題登録をしている教官の方以外（職員に限る）でセンターニュースが必要な場合はセンター受付にご連絡ください。